

70 習俗擬相沿

●●●○

71 苦味鹽燒木

●●○○●●

72 邪嬴^{*}布當錢

○○●●○○

※脚韻は下平声「先」韻、韻字は「甄、妍、沿、錢」である。
*大系本では「嬴」とあるが、ここでは刊本にある「嬴」を採る。

訓読

65 春蚕^{しよさい}は造化^{しよさい}に由る

66 忖度^{そんたく}は陶甄^{とうけん}に委^{まか}す

67 荏苒^{じんぜん}として青陽^{せいやう}盡^{じん}く

68 清和^{せいわ}朱景^{しゆけい}妍^{げん}なり

69 土風^{つふか}須^すく漸漬^{ぜんし}なり

70 習俗^{しよじゆ}相沿^{しよけん}んと擬^ぎす

71 苦味^{くみ}の塩^{しほ} 木^きを焼^{やく}き

72 邪嬴^{じやえい}の布錢^{ふせん}に當^あつ

口語訳

65 (たとえ貧しくて乏しくとも) 食事を日々に口にする事ができるのは、天地自然また、万物を創造化育